2017.8.9

WBGT値（黒球式熱中症指数）測定について

FC桜丘

　ここ数年、グランドがとても暑くなる日が多くあります。

桜丘小学校から熱中症対策の確認もあり、FC桜丘では、夏の暑い時期(5～10月)にグランドのWBGT値（黒球式熱中症指数）を測定することにいたしました。

　WBGT値については、世田谷少年サッカー連盟より、「夏の炎暑下の大会運営について」の通達の中で以下のような説明があり、ＦＣ桜丘もこれに準じて運用していくこととします。

「夏の炎暑下の大会運営について」

昨年、日本サッカー協会（ＪＦＡ）はWBGT（黒球式熱中症指数）計を使った熱中症予防のガイドラインを策定しました。試合や練習は計測値が２５度を超えたら『注意』、３１度以上となった場合は『中止または開始してはならない』となっています。

WBGTは湿度にウェイトを置いた暑さ指数で、気温よりも４～５度低く出ると言われています。昨年、小学校会場では気温より１０度低く出たときがありました。数値が激しく変動するのも特徴です。

２年目を迎える今年も世田谷少年サッカー連盟と東京都第５ブロックでは以下の要領で熱中症予防対策を講じることにしました。

気象情報の週間予報（または前日の予報）で真夏日（３０度超）や猛暑日（３５度超）が見込まれる場合、

当日の会場運営担当クラブに、試合ごとに開始前後のWBGT値を第四の審判の位置で計測、記録してもらいます。基準値を超えた場合は、立ち会いの連盟役員、審判団、対戦クラブ関係者で試合の可否を協議します。数値＝中止ではありません。総合的に判断します。

気象庁発表の数値とグラウンドの実測値は同じではありません。私たちが指標とするのはあくまでもサッカーを行う場所での観測値です。

ただし、前日の気象予報で、想像を絶する高温が示された場合は前日または当日朝の時点で中止とする場合があります。夏場は週末の気象データに常に留意してください。 (以下省略)

FC桜丘の運用につきましては、下記の測定方法で行っていただき、コーチが総合的に判断いたします。

測定方法

測定時間　-----　前枠当番始まり時、中枠当番始まり時、後枠当番始まり時

測定場所　-----　水飲み場近くのフェンス(日なた)金属部に結び付ける操作方法

操作方法　----- 裏面の電源スイッチを長押しし、約10分後にピピピと鳴り、計測値が表示

測定記録　----- バインダーのWBGT値測定記録に記入

測定報告　-----　値が31℃を超えたらコーチに報告

詳しい操作方法につきましては、水飲み場の黄色いファイルに入れてある取扱説明書を参照ください。

WBGT計は、水飲み場の引き出しの中に保管しています。また、測定終了したら、すぐに電源を切ってください。(ボタン電池を使用しています)

どうぞよろしくお願いします。

以　上